

どうして「帷子」なの？

「帷子」の地名の由来には、2つの説があります。

① 着物の「帷子」

昔、この地域の人々が麻あさをつむいで帷子じょうふ※のもととなる上布えら（麻布）をつくり、偉い人におさめていました。これにより、朝廷から「かたびら」という地名をもらいました。

※帷子は裏地のない1枚の着物のこと。装束をつけるときに汗取り（下着）として着たり、夏に身につける着物として用いられたんだ。

② 地形の「片平」

地形の片側が山、もう片側が田野の広がる平地であることをさす「かたひら」という呼び名が、徐々に変化して「かたびら」になりました。

帷子のおもなできごと

明治 22 年 7 月 帷子村が誕生（西帷子村・菅刈村・東帷子村が合併）

明治 24 年 10 月 濃尾地震が起こる

本巣郡根尾村を震源として起こった内陸直下型地震で、マグニチュードは8.0。当時の帷子地域でも総戸数372戸のうち247戸が全壊し、死者も出るなど大きな被害が出ました。阪神・淡路大震災（1995年）のマグニチュード7.2、関東大震災（1923年）の7.9と比べるといかに大きな地震だったのかがわかります。なお、古瀬の福田寺には、震災の記念碑が建てられています。

大正 14 年 4 月 名古屋鉄道（犬山口－今渡間）が開通

昭和 30 年 2 月 可児町が誕生
（広見町、今渡町、土田村、帷子村、春里村、久々利村、平牧村が合併）

昭和 32 年 4 月 石原で山火事が起こる

昭和 34 年 9 月 伊勢湾台風が起こる

昭和 44 年 3 月 西可児駅が誕生（愛岐・帷子・春里の3駅を統合）

昭和 45 年 3 月 名鉄広見線（犬山－広見間）が複線化

昭和 45 年 6 月 帷子公民館完成



昔はチャンバラやめんこ、缶けり、コマ回し、ゴム遊び、鬼ごっこなどをして遊んだもんじゃ。



中学校は可児の東と西に1校ずつしかなかったし、幼稚園も帷子には無かったね。だから、帷子からは今渡まで電車で通う子が多かったよ。



この頃の給食は確かそうざい1種類・パン・ミルク（脱脂粉乳）が多かったなあ。今みたいに給食センターではなく、学校ごとに作っていたんじゃ。

昭和 45 年 8 月 「若葉台」団地工事開始

昭和 46 年 10 月 「長坂」団地工事開始

昭和 47 年 10 月 「鳩吹台」団地工事開始

昭和 50 年 3 月 「緑」団地工事開始

昭和 51 年 4 月 かたびら幼稚園が開園

昭和 51 年 8 月 帷子小学校（新校舎）が完成

昭和 52 年 5 月 「愛岐ヶ丘」団地工事開始

昭和 54 年 4 月 西可児中学校が開校

昭和 54 年 5 月 鳩吹台で路線バス運行開始

昭和 55 年 4 月 南帷子小学校が開校（帷子小学校から分離）

昭和 56 年 1 月 愛岐ヶ丘で路線バス運行開始

昭和 56 年 4 月 かたびら第 2 幼稚園が開園

昭和 56 年 7 月 「光陽台」団地工事開始

昭和 57 年 4 月 可児市が誕生

若葉台・長坂・鳩吹台・緑・愛岐ヶ丘・光陽台の6つの団地ができ、帷子の人口は元の 10 倍の 2 万人になりました。このおかげもあって、可児町が市になるための条件である人口 5 万人を達成しました。

昭和 57 年 4 月 長坂で路線バス運行開始

昭和 58 年 4 月 帷子児童センターが開館

昭和 59 年 3 月 名鉄ショッピングセンター西可児店が開店

昭和 61 年 4 月 広陵中学校が開校

昭和 62 年 4 月 鳩吹山火災が起こる

この山林火災は 3 日間も燃え続け、消火活動には地元消防団のほか、美濃加茂市や御嵩町、兼山町、自衛隊もかけつけました。この火事で約 90 ヘクタール(バンテリンドーム ナゴヤ【旧:ナゴヤドーム】約 18 個分)の広さが焼けてしまいました。



団地がどんどんつくられた時代だね。帷子は山と田んぼばかりだったから、本当にこんなところに団地や家ができるのかな？と当時はみんな思っていたよ。



通勤で混雑する西可児駅（昭和 57 年）

この頃は帷子にスーパーマーケットはなかったから、便利になって嬉しかったなあ。



昭和 62 年 3 月 「虹ヶ丘」団地の工事開始

昭和 63 年 3 月 鳩吹台 - 緑の路線バス運行開始

平成元年 3 月 帷子公民館（現：帷子地区センター）が新築開館

平成元年 7 月 西可児土地区画整理事業がスタート

平成 5 年 10 月 図書館帷子分館が帷子公民館の一室に開館

平成 7 年 4 月 名城大学可児キャンパス（都市情報学部）が開校

平成 7 年 9 月 西可児駅前郵便局が現在の場所に移転新設

平成 8 年 4 月 バロー西可児店がオープン

平成 8 年 11 月 可児やすらぎの森が開園

平成 8 年 12 月 西可児大橋が完成

平成 10 年 4 月 光陽台で路線バス運行開始

平成 11 年 4 月 図書館帷子分館新館が開館

平成 13 年 3 月 西可児土地区画整理事業が完了

平成 17 年 5 月 新可児市が誕生（可児市と兼山町が合併）

平成 29 年 4 月 名城大学可児キャンパス（都市情報学部）が可児市から移転

平成 30 年 4 月 「帷子公民館」から「帷子地区センター」になる

平成 31 年 4 月 岐阜医療科学大学可児キャンパス（看護学部・助産学専攻科）が開校

令和 2 年 4 月 岐阜医療科学大学可児キャンパスに薬学部が開設

令和 4 年 4 月 可児市 市制施行 40 周年



地区センターで春にみられる淡墨桜は、この時に有限会社根尾開発という企業がくれたものなんだよ。



虹ヶ丘の住宅団地（平成 2 年）



やすらぎの森は森林を活かした公園をつくりたいという願いから生まれた公園じゃ。自然がいっぱいで散歩コースとしても最適なんじゃよ。



西可児大橋 開通セレモニー（平成 8 年）

岐阜医療科学大学は名城大学の跡地にできたんだよ。

